

の目的を、何とか実現する。

8月30日 幕営地(5:50)→稜線(10:05)

2日目は、荷物をまとめ、日帰り装備で沢に入る。手頃な滝が次々にかかるが、何なく越えてゆける。入谷前に読んだ記録にあった滝の連続というには、スケールの小さい滝が多い。しかし、それなりに楽しめる沢である。

都戦山の会のメンバーが今日中に東京に帰るということもあり、早目に稜線にぬけようと、急ぎ目に水流をたどる。若干のヤブこぎで、尾根に上がった。

(記・

黒谷川支流スギソネ沢 1992年8月29日

L

上梯子沢の遡行終了後、稜線でひと息いれる間もなく、スギソネ沢への下降に移る。下降はヤブがひどく、沢に下ってから両側からヤブがかかる。滝もない。単純な沢にあきあきした頃、黒谷川本流出合。少し下ると、前夜幕営した上梯子沢の出合であった。

荷物をまとめて帰路につく頃より、雨が降り始める。そして次第に沢の水が増えてくる。急いで下り、右岸に踏跡が出てきたところで沢から上がる。しばらくして下を見ると、濁った泥流となっていた。黒谷川上部も、伐採などで荒れているようである。静かないい地域であるが、釣師のゴミの多さにまいった一日であった。

(記・

[タイム] 下降開始(10:05)→黒谷川本流出合(13:00)

伊南川支流巽沢左俣 1992年10月3日

ズタリ沢から踏跡のある尾根を越えて、巽沢左俣の源流に降り立つ。9時30分、下降開始。尾根を1本へだてただけのズタリ沢が滝の連続であったのに対し、巽沢は平凡である。高度こそとんとん落ちてゆくが、滝はかからない。やがて前方